

## 国際会議出席



## 韓国・ソウルでのAPAIE2014に参加して

教育学部附属教育実践総合センター・教授 須曾野仁志



3月16日から4日間、韓国・ソウルで開かれた国際会議APAIE2014に参加しました。APAIE(アールパイエ)とは、Asia-Pacific Association for International Educationのことで、APAIEはアジア太平洋地域における高等教育機関の中で国際教育活動を推進し、大学間で国際協力を進めていくことを目標としています。この国際会議は毎年アジアの都市で開かれており、今年ソウルでしたが、2013年香港、2012年バンコク、2011年台北で開かれており、2008年には東京・早稲田大学が会場だったそうです。

今回のこのAPAIE参加は、国立大学改革強化推進事業を推進する名古屋大学からお声をかけていただき実現したもので、参加者は、名古屋大学国際教育交流センター等の教員5名、そして、三重大学から国際交流センターの松岡知津子先生と私(須曾野)の2人でした。

この国際会議に行き驚いたのは、大変規模が大きく、参加者も東アジア地域だけでなく、ドイツやイタリアなどヨーロッパ、アメリカやカナダなど北米の大学関係者の参加者多かったことでした。彼らの多くは、アジア太平洋地域の学生を自分の大学に留学させるためのリクルート活動で来ていました。会議の正式名称は、APAIE Conference & Exhibitionであり、実践や研究を発表するセッション以外に、ホール内での各大学の展示用ブースで、どのように留学生を受け入れたり、海外の大学でどのようなことが学べるかについて知ることができたことが有意義でした。

各大学の展示用ブースを回っていると、我が三重大学と学術協定を結んでいる大学もいくつかありました。その中の一つ、タイのカセサート大学では、「サワディカップ」と挨拶すると、「こんにちは、ようこそお越し下さいました」と流ちょうな日



タイ・カセサート大学展示ブースで



APAIE全体会場

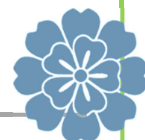
本語で返答してくれた教員がいました。日本の大学に留学、学位取得後、日本人の奥さんと一緒にタイに帰国されたそうです。私自身、15年ぐらい前に、三重大学にカセサート大学訪問団が来られたときに、ご一行を附属中学校に案内したことがありました。協定校で、日本語がかなり使える人がいらっしやると、国際交流も進めやすいと感じました。

この会議のイベントとして、韓国・ソウルの大学を訪れるキャンパスツアーもありました。私は、協定校の一つである梨花女子大学を選び、4時間ほどのツアーを楽しみました。梨花女子大学には、教育工学研究者の友人がいますので、何度も訪れていますが、学生施設が充実しており、ガイド訳の学生の英語のすばらしさに感心しました。また、そのキャンパスツアー以外に、三重大学に1年ほど留学生していた梨花女子大学学生と、松岡先生と一緒に4人で会いましたが、かつて日本に留学していた学生に活躍してもらって国際交流を進めることは大事なことだと感じました。

今回のAPAIE参加は名古屋大学の先生方のご厚意により実現したものでした。名古屋大学の先生方とは、焼き肉や韓食など何度も食事を一緒にさせていただきました。「三重大学と名古屋大学が近くなので何か一緒に国際交流がやれるといいですね」と提案をいただいたり、具体的に名古屋に来た外国大学のお客様や留学生を伊勢志摩や忍者の郷伊賀に案内することも考えたりしました。この期間中、ソウルを回ったり、食事に出かけたりする上で、訪問者7人の中で大変心強かったのが、韓国語堪能な我が大学の松岡知津子先生でした。名古屋大学の先生方、松岡先生、本当にお世話になり、ありがとうございました。



## ジャウメ・プリメル大学よりの訪問者受け入れ




2013年11月18日より3日間、三重大学の交流協定校のジャウメ・プリメル大学 (UJI) から、留学生担当官の Margarita Gonell Ibáñez 氏が夫君と共に三重大学を訪問されました。18日と19日は、堀浩樹国際交流担当理事及び江原宏国際交流担当副学長への表敬訪問、工学部訪問、国際交流課での意見交換、キャンパスツアー等忙しい日程をこなされました。20日は教育学部を訪れ、藤田達生学部長及び秋元ひろと国際交流委員長を表敬訪問されました。また、英語科では早瀬光秋特任教授の授業を見学し、受講生にパワーポイント使って、スペイン及びUJIの紹介をされました。また、UJIからの交換留学生である Miguel Angel Bordas Sierra さんとも会われ、三重大学の留学生活について聞かれました。

## 外国人研究者

## My Stay at Mie University

Foreign Researcher Mingyuan Fang



I came to the Faculty of Education, Mie University at the beginning of April, 2013 as part of faculty cooperation between Anhui Agriculture University and Mie University. In the English Department, I audited English Teaching II, Seminar in English Teaching II, and English Teaching Methodology I & II taught by Prof. Hayase, and English Teaching I and Seminar in English Teaching I by Prof. Arao. By studying just like the other students in these classes, on the one hand I was able to deepen my understanding about English education and, on the other hand, I knew more about how English is taught in Japanese schools. Besides these English classes, I took two Japanese classes, in which I was able to familiarize myself with Japanese language and culture.

I would also like to write about other experiences during my stay. First, I observed three English classes in two universities. One of the classes was taught through a Communicative Language Teaching (CLT) method, and the other two classes were mainly taught by the Grammar-Translation Method. In the former class, the instructor spoke less and the students had more chances to communicate in English, which was good for improving their speaking skills. In the latter classes, more time was spent in the analysis of grammar and vocabulary.

Second, I had the honor to give a presentation on English education in China in a Mie Branch meeting of the Chubu English Language Education Society. After my 90-minute presentation, 30 minutes were allotted to the QAs and discussion with the participants about the presentation. This meeting was a good platform for English teachers to exchange ideas and improve their teaching skills.

Third, in November 2013, I had a chance to observe an English class in the Attached Junior High School of the Faculty of Education. This English class was taught by a CLT method. All the students were divided into groups and took turns in giving their presentations about houses in different countries. The students who were not giving their presentations had to listen carefully and ask questions after each presentation. The English teacher acted as a facilitator



and students had more chances to interact with each other.

Fourth, at the beginning of February, I joined a big English event which was named the “Annual School English World,” organized by an elementary school in Suzuka City. After a lively opening ceremony, students from the grades one to six began to perform in various rooms what they had prepared in advance. They did a very good job using English to tell stories, acting out dramas, and playing games. Not only did I appreciate their performances in English, but also interacted actively with them. This was a very successful event because students were able to learn English by using it in different kinds of activities and at the same time, their motivation and interest were greatly enhanced in an English learning environment created by the school.

Finally, I participated in the 20<sup>th</sup> Tri-University International Joint Seminar & Symposium, observed two video conferences, and co-authored a paper.

All in all, thanks to Hayase-sensei's patient instruction and considerate arrangements and the help from Arao-sensei, Miyachi-sensei, Nishimura-sensei and many other instructors and administrators, I lived and studied happily at Mie University. After almost one year's study and research here, not only my English but also my Japanese was greatly improved. This experience is a priceless treasure that will surely have important influence on my future career.





## 三重大学での留学生活

天津師範大学 DD 学生第 3 期生 田 金婷

時間が経つのははやいものです。日本での留学生活はもうすぐ一年間になります。日本に来てから、先生方をはじめ、先輩から周りの日本人の学生たちまでいろいろお世話になりました。皆さんのおかげで、私たちは有意義な一年を過ごしました。

一年前、私たちは大きなスーツケースを持って日本へ来ました。そのスーツケースの中に、荷物だけではなく、私たちそれぞれの夢と日本への憧れも入っていました。ちょうど桜が満開の時期で、私たちがその夢と憧れを抱いて、一年間の留学生活を始めました。

初めての一人暮らしは、私たちにとって、期待しながらも心配していました。新しい環境で、右も左も分からなくて、とても不安でした。しかし、ここに来て、周りに先生方と先輩たちの姿が見えるし、心強くなりました。市役所に行く時とか、履修科目を選ぶ時とか、授業の内容が分からない時など、先生方と先輩たちはずっと私たちのそばにいて、いろいろと親切に教えてくださいました。皆さまが作ってくださったとてもよい環境の中で、私たちはさまざまなことが体験でき、大きく成長してきました。

教室内で、先生方のご指導の元で、私たちは確かな学力を身につけました。さまざまな授業活動によって、授業内容が理解やすくなって、日本人の友たちもたくさんできました。日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」という四技能が高まるとともに、「感じる力」「考える力」「生きる力」もだんだん伸びてきました。

日本語能力が上達するにつれて、日本文化についても知らず知らずのうちにたくさん勉強できました。国際交流センターのおかげで、研修旅行やお盆踊りなどさまざまな活動に参加でき、視野を広げました。そして、津祭りのような祭りも体験できまして、日本文化について更なる理解ができました。国際留学生と一緒に喉自慢大会や留学生日本語弁論大会に参加して、異文化コミュニケーションも深まっていました。一年間の留学生活



自転車の譲渡会

は短いですが、私たちにとって、一生忘れられない思い出を残しました。

私たちは 3 月 11 日の飛行機で帰国してしまいます。みんなは 6 月に天津師範大学を卒業したら、それぞれ新しい旅たちが始まります。これから、どこにいても先生方のお教えを忘れずに生きていきます。一年間お世話になりました。心から感謝の意を申し上げます。本当にありがとうございました。

最後に、天津師範大学と三重大学の交流がますます深まっていくことを願います。



お盆踊り

英語教育コース所属の 4 年生 3 名が約 10 ヶ月間ほぼ同じ時期に米国・カナダに留学しました。留学先の語学学校はそれぞれ異なっていますが、貴重な経験をし、多くのことを学んで帰国しました。留学体験記を書いてもらいました。



に話し合う。ありとあらゆることが日本での生活とはかけ離れた経験ばかりでした。最初の頃はそのような光景にたじろいばかりでしたが、時を経るにつれて徐々に受け入れるようになりました。この留学で徐々に受け入れたことが、今の自分の価値観の一部として心に強く残っています。

新しいことに挑戦しなければ、新しい価値観を得ることもできません。なぜなら、自分の価値観を増やすということは、自分の知らない世界を見ることにおいてしかなしえないからです。

## 学生海外留学報告

### サンフランシスコ留学を通して

英語教育コース 4 年 (62 期) 服部和久

“Stay hungry. Stay foolish.”この言葉は私が留学している間に何度も聞いたスティーブジョブズ氏の演説からの言葉です。直訳すると、「空腹であれ。愚かであれ」という意味の言葉ですが、ジョブズ氏は「常に貪欲であり続けろ。常に新しいことに挑戦し続けろ」というメッセージとして大学卒業生に語ります。ひと言で言うと、私が留学で学んだことはこの言葉に尽きるような気がしています。

私は 2013 年 4 月から 8 か月の間、語学留学のためアメリカ、サンフランシスコで生活しました。サンフランシスコでの生活はすべての光景が新鮮で、驚きと発見の連続でした。私が通っていた学校が語学学校だったこともあり、アメリカだけではなく、世界各国の人々や文化と触れ合うことができ、とても刺激的な 8 か月を過ごすことができました。街中では英語だけでなく、中国語、スペイン語、日本語など、様々な言語が飛び交い、同性愛者が手をつなぎながら闊歩する。一方で、学校では出身国の誇れることについて考え、各国の犯罪や兵役について真剣

留学前は自らにできることとできないことを設定し、自分ができないと思ったことは行動せずに辞めてしまう、そんな食わず嫌いの人間でした。しかし、留学を通して多くのことを経験したことで、自分自身が見える世界の幅が大きく広がり、なにより、自分が変わったという自覚を持てるようになりました。もちろん留学前に自分がこのように変わると考えていたわけではありません。しかし、この変化は自分にとって確実にプラスと

いえる変化でした。この変化は新たなことに貪欲に挑戦した結果だと思っています。ある経験で何を得られるのかは経験してみないとわかりません。この留学で私は新しい世界に飛び込む楽しさと面白さを知りました。そのような意味で、私自身、「常に貪欲」で「常に新たなことに挑戦」する自分であり続けたいと思います。

## カナダ留学での成長

英語教育コース 4年 (62期) 森 修平

2013年4月から12月までの8カ月間、カナダのバンクーバーとトロントに留学しました。最初に留学をしようと思ったのは、何か自分を変えたいという漠然とした思いでした。カナダを選んだ理由は、治安が良く、自然豊かな国だと聞いていたからです。実際に、海や山に囲まれたとてもきれいな国でした。また、多種多様な人たちや文化が混在していて、互いを尊重して生活している印象が強く残っています。カナダ留学では、ホームステイやシェアハウス、語学学校に行ったり、働いたり貴重な体験をたくさんしました。

8カ月の留学の間で、自分を一番成長させたと思うのは、6週間のインターンシップです。トロントの公立学校、Carl Haig



語学学校の学生たちと

school という学校で先生たちのサポートをさせて頂きました。カナダの教育にとっても興味があったのと、将来、英語教師になるという夢に何か活かせるのではないかと思い決意しました。私は、3歳から5歳までのクラスと、11歳のクラスの補助を担当させて頂きました。まだ、自分の英語力にも、自信がなく、ましてや子供たちを相手にする仕事なので、不安でいっぱいでした。とにかく積極的に子供たちとかかわり、笑顔で接しようと思いがけました。

幼少のクラスは、一クラス30人もいたので、常に全体を把握する力が必要でした。また、同じ目線で話すことや、分かりやすい言葉で、ゆっくりと説明するなど、幼い子供とあまり関わったことがない私にとって、毎日学ぶことがありました。11歳のクラスでは、日本の授業とは違った点がいくつか見られました。先生が投げかけた質問に対して、生徒たちは、積極的に発言し、生徒間で討論をしていました。また、作文指導も、生徒たちの中で添削をしていて、教師側からの一方通行の授業ではなく、生徒たち自ら授業を作っているように感じました。

このインターンシップを通して、子供たちとの接し方や、教え方など、日本では気づけなかったことをたくさん学ぶことができました。また、英語が完璧に使いこなせなくても、相手に伝えようという気持ちを持つことが大切だと思いました。

8カ月という長期の留学は、大変な思いもしましたが、それを乗り越えたという自信を持つことができました。そして、世界の色々な人たちや、文化と関わることができ、自分の視野や考え方が広がったと思います。何よりも自分から様々なことに一歩を踏み出したことが留学での大きな成果となりました。

## 世界が広がった留学生活

英語教育コース 4年 (62期) 山中麻友美

よく、甘いものが食べられない人は人生を損している。とか、あれをやったことないなんて人生損しているよ。という言葉に耳にしますよね？私が今感じているのは、留学をしないのは、人生間違いなく損だということです。言葉で言い表すのは難しいけれど、それくらい私の留学生活は充実していました。

私は、8ヶ月間アメリカのシアトルにある Seattle Pacific University に語学留学をしました。実は、SPU には2年前、大学が行っている5週間の語学研修に参加したときに行っています。その時は、日本人ばかりと関わって、英語も学校とホームステイ先以外ではほとんど使わず、外国人の友達もあまり出来ませんでした。少し長めの海外旅行という感じで、とてももったいないことをしてしまいました。その反省を胸に今回の留学に臨みました。

まず、語学学校やホームステイはもちろん、+αで外国人との交流を私は大切にしました。学校が終わったら、積極的に外国人の友達を遊びに誘ったり、大学内のカフェに通ってアルバイトのネイティブスピーカーと話をしたり、時には外国人しかいないパーティーに行ったりもしました。大学附属の語学学校に通っていたこともあり、アメリカ人の友達もたくさん出来ました。彼らと過ごす中で、私は、外国人の人としての在り方の違いをすごく実感しました。日本人とは異なる文化、価値観を持ち、感性や考え方も違いました。日本人にとっての常識は彼

らにとってはそうではありませんでした。そういう違いが私にとってはとても衝撃的であり、また魅力的でした。また、客観的に日本や日本人を見つめる良い機会にもなりました。初めは、単に「外国人の友達をたくさん作って、英語を話せるようになりたい」と思っていたのですが、実際は彼らと触れ合う中で、英語や学問を超えた学びがあったと思っています。日本にいた時は、限られたコミュニティの中で、本当に狭い世界しか知らなかった私の視野がこの8ヶ月間の留学生活で何倍にも広がったと思います。留学をして本当に良かったです。

将来、教員という立場になったら、この留学生活で感じたことや学んだことを活かし、英語という教科を通して、子ども達に海の向こうの世界を伝えたいと思っています。



前列右から3人目が山中さん